

現場図書館職員のためのウェブアクセシビリティの基礎

—伝わるウェブからの情報発信—

大阪府立中央図書館 杉田正幸

1. 日本図書館協会のガイドラインでのウェブアクセシビリティの位置付け
日本図書館協会「図書館における障害を理由とする差別の解消の推進に関するガイドライン」

http://www.jla.or.jp/portals/0/html/lsh/sabekai_guideline.html

5 基礎的環境整備→(7) アクセシブルな図書館ホームページ・広報等

http://www.jla.or.jp/portals/0/html/lsh/sabekai_guideline.html#5-7

①アクセシブルな図書館ホームページ：作成においてはJIS規格「JIS X 8341-3:2016 高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブコンテンツ」を参照

2. JIS X 8341-3:2016 の概要と経緯

『JIS X 8341-3:2016』は、高齢者や障害のある人を含む全ての利用者が、使用している端末、ウェブブラウザ、支援技術などに関係なく、ウェブコンテンツを利用することができるようにすることを目的としている日本工業規格。そのためにウェブコンテンツが満たすべきアクセシビリティの品質基準として、レベル A（最低レベル）、レベル AA、レベル AAA（最高レベル）という3つのレベルの達成基準が定められている。

2-1 JIS X 8341 の明細

JIS X 8341-1 第1部：共通指針

JIS X 8341-2 第2部：パーソナルコンピュータ

JIS X 8341-3 第3部：ウェブコンテンツ

JIS X 8341-4 第4部：電気通信機器

JIS X 8341-5 第5部：事務機器

JIS X 8341-6 第6部：対話ソフトウェア

JIS X 8341-7 第7部：アクセシビリティ設定

2-2 経緯

2004年6月、『JIS X 8341-3:2004』が制定。

2008年12月、『WCAG (Web Content Accessibility Guidelines) 2.0』がW3C勧告に。

2010年8月、『WCAG 2.0』を包含する形でJIS X 8341-3が改正され『JIS X 8341-3:2010』に。

2012年10月、『WCAG 2.0』がそのまま『ISO/IEC 40500:2012』に。

2016年3月22日、『WCAG 2.0』がISO/IECの国際規格になったことを受けて、その一致規格となるように改正され『JIS X 8341-3:2016』に。

2016年4月20日、総務省が「みんなの公共サイト運用ガイドライン」（旧：運用モデル）

を公表。

2-3 JIS X 8341-3:2016 の閲覧と購入

閲覧だけであれば以下のページで無料でできますが、印刷はできませんので、その場合には購入が必要。

・「閲覧：日本工業標準調査会 - JIS X 8341-3:2016 高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブコンテンツ」

http://www.jisc.go.jp/app/pager?RKKNP_vJISJISNO=X8341-3&%23jps.JPSH0090D:JPS00020:/JPS/JPS00090.jsp

・「購入：JSA Web Store - JIS X 8341-3:2016 高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブコンテンツ」

<http://www.webstore.jsa.or.jp/webstore/Com/FlowControl.jsp?lang=jp&bunshoId=JIS+X+8341-3%3A2016&dantaiCd=JIS&status=1&pageNo=0>

2-4 規格の構成

1 知覚可能の原則

1.1 代替テキストのガイドライン

1.1.1 非テキストコンテンツの達成基準

1.2 時間依存メディアのガイドライン

1.2.1 音声だけ及び映像だけ（収録済み）の達成基準

1.2.2 キャプション（収録済み）の達成基準

1.2.3 音声解説又はメディアに対する代替コンテンツ（収録済み）の達成基準

1.2.4 キャプション（ライブ）の達成基準

1.2.5 音声解説（収録済み）の達成基準

1.2.6 手話（収録済み）の達成基準

1.2.7 拡張音声解説（収録済み）の達成基準

1.2.8 メディアに対する代替コンテンツ（収録済み）の達成基準

1.2.9 音声だけ（ライブ）の達成基準

1.3 適応可能なガイドライン

1.3.1 情報及び関係性の達成基準

1.3.2 意味のある順序の達成基準

1.3.3 感覚的な特徴の達成基準

1.4 判別可能なガイドライン

1.4.1 色の使用の達成基準

1.4.2 音声の制御の達成基準

1.4.3 コントラスト（最低限レベル）の達成基準

1.4.4 テキストのサイズ変更の達成基準

1.4.5 文字画像の達成基準

1.4.6 コントラスト（高度レベル）の達成基準

1.4.7 小さな背景音、又は背景音なしの達成基準

1.4.8 視覚的提示の達成基準

1.4.9 文字画像（例外なし）の達成基準

2 操作可能の原則

2.1 キーボード操作可能のガイドライン

2.1.1 キーボードの達成基準

2.1.2 キーボードトラップなしの達成基準

2.1.3 キーボード（例外なし）の達成基準

2.2 十分な時間のガイドライン

2.2.1 タイミング調整可能の達成基準

2.2.2 一時停止，停止及び非表示の達成基準

2.2.3 タイミング非依存の達成基準

2.2.4 割込みの達成基準

2.2.5 再認証の達成基準

2.3 発作の防止のガイドライン

2.3.1 3回のせん（閃）光，又はしきい（閾）値以下の達成基準

2.3.2 3回のせん（閃）光の達成基準

2.4 ナビゲーション可能のガイドライン

2.4.1 ブロックスキップの達成基準

2.4.2 ページタイトルの達成基準

2.4.3 フォーカス順序の達成基準

2.4.4 リンクの目的（コンテキスト内）の達成基準

2.4.5 複数の手段の達成基準

2.4.6 見出し及びラベルの達成基準

2.4.7 フォーカスの可視化の達成基準

2.4.8 現在位置の達成基準

2.4.9 リンクの目的（リンクだけ）の達成基準

2.4.10 セクション見出しの達成基準

3 理解可能の原則

3.1 読みやすさのガイドライン

3.1.1 ページの言語の達成基準

3.1.2 一部分の言語の達成基準

3.1.3 一般的ではない用語の達成基準

3.1.4 略語の達成基準

3.1.5 読解レベルの達成基準

3.1.6 発音の達成基準

3.2 予測可能のガイドライン

3.2.1 フォーカス時の達成基準

3.2.2 入力時の達成基準

3.2.3 一貫したナビゲーションの達成基準

3.2.4 一貫した識別性の達成基準

3.2.5 要求による変化の達成基準

3.3 入力支援のガイドライン

3.3.1 エラーの特定の達成基準

3.3.2 ラベル又は説明の達成基準

3.3.3 エラー修正の提案の達成基準

3.3.4 エラー回避（法的，金融及びデータ）の達成基準

3.3.5 ヘルプの達成基準

3.3.6 エラー回避（全て）の達成基準

4 堅ろう（牢）（Robust）の原則

4.1 互換性のガイドライン

4.1.1 構文解析の達成基準

4.1.2 名前（name）、役割（role）及び値（value）の達成基準

5 適合

5.1 適合要件

5.1.1 適合レベル

5.1.2 ウェブページ全体

5.1.3 プロセス全体

5.1.4 技術のアクセシビリティ サポートされた使用方法だけ

5.1.5 非干渉

5.2 適合表明（任意）

5.2.1 適合表明の必須要素

5.2.2 適合表明の任意要素

5.3 部分適合に関する記述—第三者によるコンテンツ

5.4 部分適合に関する記述—言語

引用：『JIS X 8341-3（ISO/IEC 40500） 高齢者・障害者等配慮設計指針—
情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブコンテンツ』 平成
28年3月22日 日本規格協会より

2-5 JIS X 8341-3:2016 について詳しく知るには

・「JIS X 8341-3:2016 解説 2016年4月版」（ウェブアクセシビリティ基盤委員会）
<http://waic.jp/docs/jis2016/understanding/201604/>

・「ウェブコンテンツの JIS X 8341-3:2016 対応度表記ガイドライン」（ウェブアクセシビリティ基盤委員会）
<http://waic.jp/docs/jis2016/compliance-guidelines/201603/>

・「ウェブアクセシビリティ方針策定ガイドライン 2016年4月版」（ウェブアクセシビリティ基盤委員会）
<http://waic.jp/docs/jis2016/accessibility-plan-guidelines/201604/>

・「A. A. O. JIS X 8341-3 の解説 JIS X 8341-3:2016 改正と公共機関に求められる取組」（アライド・ブレインズ）
<http://www.aao.ne.jp/column/guideline/jis/index.html>

・「JIS X 8341-3:2016 の公示 コラム」（ミツエーリンクス）
<http://www.mitsue.co.jp/column/backnum/20160322.html>

- ・「JIS X8341-3:2016」(Website Usability Info)
http://website-usability.info/2016/03/entry_160331.html

2-6 みんなの公共サイト運用ガイドライン (2016年版) について詳しく知るには「みんなの公共サイト運用ガイドライン (2016年版)」は、公的機関がウェブアクセシビリティの確保・向上に取り組む際の手順等を解説したガイドライン。

- ・「報道資料 「みんなの公共サイト運用ガイドライン (2016年版)」及び「みんなのアクセシビリティ評価ツール：miChecker Ver. 2.0」の公表」(総務省)
http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01ryutsu05_02000074.html

- ・「情報バリアフリー環境の整備 みんなの公共サイト運用ガイドライン (2016年版)」(総務省)
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/b_free/guideline.html

<みんなの公共サイト運用ガイドライン>

- ・PDF版
http://www.soumu.go.jp/main_content/000439213.pdf
- ・Word版
http://www.soumu.go.jp/main_content/000439212.docx

- ・「ウェブアクセシビリティ取組確認・評価表 (Excel)」
http://www.soumu.go.jp/main_content/000439214.xlsx

- ・「公共分野におけるウェブアクセシビリティの確保の取組の充実に関する調査研究報告書 (Word)」
http://www.soumu.go.jp/main_content/000413299.doc

- ・「A.A.O. みんなの公共サイト運用ガイドライン 2016年版の解説」(アライド・ブレインズ)
<http://www.aao.ne.jp/column/guideline/minna/index.html>

3. ウェブアクセシビリティのチェックツール

以下のようなチェックツールを用いることでホームページが障害者に利用可能か JIS に準拠して作られているかを確認することができる。

ただし、JIS の 2016 年版に対応しているツールは現状では「miChecker (エムアイチェッカー) Ver. 2.0」など少数で、今回ここで紹介するものも 2010 年版に合わせて作られたものが中心。

- ・「miChecker (エムアイチェッカー) Ver. 2.0」(総務省)
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/b_free/michecker.html

- ・「クラウド miChecker」(インフォ・クリエイツ)
<https://accessibility.jp/cloudmick/>

- ・「WorldSpace Comply」(ミツエーリンクス)
<http://www.mitsue.co.jp/service/accessibility/worldspace.html>
- ・「aViewer 2013 日本語版」(インフォアクシア)
<https://weba11y.jp/tools/aviewer/>
- ・「Web Accessibility Toolbar 2012J」(インフォアクシア)
<https://weba11y.jp/tools/wat/>
- ・「カラー・コントラスト・アナライザー 2013J」(インフォアクシア)
<https://weba11y.jp/tools/cca/>
- ・「Web Developer」(chrispederick)
<https://addons.mozilla.org/ja/firefox/addon/web-developer/>
- ・「Another HTML-lint 5 アクセシビリティチェック」(ジゾン)
<http://www.htmlint.net/wac/ja/>
- ・「ウェブアクセシビリティチェックサイト HARETTA」(NTT アイティ)
<http://haretta.ntt-it.co.jp/wact/inputProc/inputUrIBL.do>
- ・「WAIV - ウェブアクセシビリティ評価ツール」(ユー・アイズ・デザイン)
<http://www.ueyesdesign.co.jp/waiv/>
- ・「Markup Validation Service」(W3C)
<http://validator.w3.org/>
- ・「CSS Validation Service」(W3C)
<http://jigsaw.w3.org/css-validator/>
- ・「NoCoffee Vision Simulator」(Google Chrome アドオン)
<https://chrome.google.com/webstore/detail/nocoffee/jjeeggmbnhckmgdhmgdckeigabjfbddl>

4. 図書館におけるウェブアクセシビリティ方針

図書館も自治体サイト内にあるため、その自治体の方針に従っているものが多いが独自にアクセシビリティ方針やアクセシビリティポリシーを掲載しているところもある。以下のページには一部、自治体のページと全く同じものを使用しているものもあるが、独自に作っているものもいくつかある。

- ・「国立国会図書館ウェブアクセシビリティ方針 平成28年8月改訂版」
<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/standards/accessibility/policy.html>

- ・「ウェブアクセシビリティ方針 - 三重県立図書館」
http://www.library.pref.mie.lg.jp/?page_id=108
- ・「東京都立図書館_サイトポリシー」
<http://www.library.metro.tokyo.jp/tabid/2192/Default.aspx>
- ・「横浜市立図書館 ウェブアクセシビリティ方針」
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/library/unei/webaccessibility.html>
- ・「お問合せ：アクセシビリティについて 名古屋市図書館ホームページ」
<https://www.library.city.nagoya.jp/toiawase/accessibility.html>
- ・「アクセシビリティポリシー：稲城市立図書館」
http://www.library.inagi.tokyo.jp/?page_id=323
- ・「ウェブアクセシビリティ方針 - 茨木市立図書館」
http://www.lib.ibaraki.osaka.jp/?page_id=163
- ・「アクセシビリティ 川越市立図書館」
<https://www.lib.city.kawagoe.saitama.jp/accessibility/>
- ・「ウェブアクセシビリティ方針について 那須塩原市図書館」
<http://www.nasushiobara-library.jp/%E3%82%A6%E3%82%A7%E3%83%96%E3%82%A2%E3%82%AF%E3%82%BB%E3%82%B7%E3%83%93%E3%83%AA%E3%83%86%E3%82%A3%E6%96%B9%E9%87%9D%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6/>
- ・「アクセシビリティについて 石巻市図書館」
<http://www.lib0.city.ishinomaki.lg.jp/index.php?cmd=access>
- ・「愛知県北名古屋市図書館」
<https://tosho.city.kitanagoya.lg.jp/accessibility/accessibility.html>
- ・「ホームページ運用方針 - 四日市市立図書館」
https://www.yokkaichi-lib.jp/?page_id=138

5. 図書館ホームページ作成時におけるページごとの配慮

- (1) トップページ
- (2) 利用案内
- (3) 障害者サービス
- (4) 行事案内
- (5) 会館カレンダー
- (6) 資料紹介・資料一覧・目録
- (7) パスファインダー
- (8) 電子書籍・デジタルデータ

- (9) 携帯ページ・スマートフォンページ
- (10) 蔵書検索
- (11) 横断検索
- (12) インターネット予約
- (13) Eレファレンス
- (14) 問い合わせフォームや電子メールでの問い合わせ
- (15) Twitter や FACEBOOK など SNS での情報提供

6. 図書館ホームページ作成時におけるファイル種別ごとの対応

- (1) HTML
- (2) テキストデータ
- (3) PDF や Word・Excel など
- (4) 画像
- (5) 動画・音声
- (6) Flash やアニメーション